



# とどけよう スポーツの力を東北へ!

## 第22回日・韓・中ジュニア交流競技会岩手大会

8月23日～29日まで、岩手県内5市11競技会場で日・韓・中ジュニア交流競技会が開催されました。高校生世代のアスリートたちはベストを尽くして競い合い、国は異なっても同世代の若者同士、スポーツを通じて友好を深めました。

### 1,000人余りが参加した盛大な開会式

この競技会は日本、韓国、中国の青少年を対象に、スポーツ交流による相互理解と競技力の向上を目的に、1993年から3カ国持ち回り方式で毎年開催されています。22回目を迎える今大会は岩手県が会場になり、陸上競技、

サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ラグビーフットボールの11競技を盛岡市、花巻市、北上市、一関市、奥州市の5市で実施。開催地の本県は単独チームを結成して全種目に出場するとともに、本県の豊かな自然や伝統文化などの魅力を国内のみならず、アジアの近隣諸国にアピールしました。

開会式は8月24日花巻温泉ホテル千秋閣で行われました。3カ国から集まった選手・指導者は1,000人余り。岩手県の若きアスリートたち191人も胸を張って入場しました。

盛岡白百合学園高校3年山口奏さんの重厚なチェロ演奏から始まり、花巻北高校2年赤沼ひとみさんと藤瀬響平さんが司会進行を努めました。

各国の選手団長が大きな拍手に迎えられて入場、実行委員会の川口仁志委員長(岩手県体育協会副会長兼理事長)が高らかに開会を宣言しました。張富士夫日本体育協会会長は「大会が日本の岩手で盛大に開催されることは大変喜ばしい。競技の合間に相互の交流、友情を深めてほしい。2020年の東京オリンピックで再びお会いすることを期待する。」とエールを送りました。3カ国語で挨拶をして



一部写真は岩手日報撮影







